

平成 22 年 3 月 31 日現在

研究種目： 基盤研究（C）
 研究期間： 2007 ～ 2009
 課題番号： 19520403
 研究課題名（和文） 『全国方言文法辞典』のための諸方言の文法に関する対照研究
 研究課題名（英文） Contrastive Research of for Grammar Dictionary in Japanese Dialects
 研究代表者
 前田 直子（MAEDA Naoko）
 学習院大学・文学部・教授
 研究者番号： 30251490

研究成果の概要（和文）：諸方言の文法形式を統一的な観点のもとに記述し、全国方言の文法現象を一望できる辞典を編むことを目的に、原因・理由表現の対照研究を行った。原因・理由表現に特徴のある要地方言を選定し、共通調査項目による現地調査を実施し、その調査結果に基づいて辞典項目記述を行った。研究成果は、『全国方言文法辞典資料集(1)原因・理由表現』に収めるとともに、ウェブサイト「全国方言文法データベース 原因・理由」を作成し、広く一般に公開した。

研究成果の概要（英文）：The aim of this research is to describe the grammatical forms of Japanese dialects in the unified procedures and compile a dictionary to show the whole phenomena of Japanese grammar. We selected some crucial dialects which have distinctive characteristics in reason expressions, conducted field surveys by using the unified common list, and gave accounts of each form. The result of the research was published in book form, “Grammar Dictionary of Japanese Dialects(1): Reason Expressions”, and also, we started up the web site to open it of the research to the public.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	800,000	240,000	1,040,000
2008年度	600,000	180,000	780,000
2009年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総計	2,000,000	600,000	2,600,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・日本語学

キーワード：方言、文法、原因・理由表現

1. 研究開始当初の背景

現代日本語を対象にした共時的な文法研究が一定の成果を収めつつある 21 世紀初頭において、そうした研究成果を応用し、検証し、発展させる研究の方向として、方言間での文法現象の対照研究というものが考えら

れる。ただし、こうした対照研究のためには、個々の方言に関する網羅的な記述とともに、どの方言にどのような文法現象があるかということが、俯瞰的に把握されていることが必要である。しかしながら、日本の方言学で集積されてきた大量のデータは、必ずしもす

すべての日本語研究者が容易に利用できる形になって提供されてはいない。今後、日本語の文法研究が向かう先に、方言文法を対象とする分野が拓けるとすれば、方言研究者の側から、すべての日本語研究者が利用可能な形でデータを再提示することが必要不可欠になってくると思われる。

2. 研究の目的

本研究の目的は、これまで方言学の分野で集積されてきた諸方言の文法に関する記述の中から、文法形式を網羅的に取り上げ、さらに統一的な観点のもとに記述を精密化し、全国方言の文法現象を一望できる辞典を編むことである。これによって、「方言研究」と「日本語研究」の境界をいったん解消し、いずれは、すべての日本語研究が地域的バリエーション（方言差）を把握したうえで行われるようになるための一助としたい。

3. 研究の方法

まず、既存の方言資料（方言辞典、方言談話資料、方言地図など）から文法形式とその用例等を抜き出したデータベースを作成する。次に文法カテゴリーごとに、共通調査項目を作成し、要地方言の調査を実施する。調査結果を検討し、辞典項目記述担当者が、当該文法形式の記述を行う。

4. 研究成果

本研究期間においては、主に、原因・理由表現についての調査・記述を行った。

研究成果をまとめた報告書として、『全国方言文法辞典資料集(1)原因・理由表現』を刊行した。以下は、その目次である。

【概説】

- ・原因・理由表現の用法解説（前田直子）
- ・原因・理由表現の歴史的概観（船木礼子）
- ・原因・理由表現の地理的概観
（日高水穂・小西いづみ・竹田晃子）

【要地方言共通調査報告】

- ・調査概要
- ・原因・理由表現 共通調査項目
- ・青森県東津軽方言の原因・理由表現
（竹田晃子）
- ・青森県八戸市方言の原因・理由表現
（日高水穂）
- ・山形県山形市方言の原因・理由表現
（竹田晃子）
- ・山梨県早川町奈良田方言の原因・理由表現
（吉田雅子）
- ・岐阜県岐阜市方言の原因・理由表現
（山田敏弘）
- ・富山県富山市方言の原因・理由表現
（小西いづみ）
- ・富山県立山町方言の原因・理由表現

- （小西いづみ）
- ・京都府京都市方言の原因・理由表現
（船木礼子）
- ・大阪府摂津方言の原因・理由表現
（高木千恵）
- ・広島県三次市方言の原因・理由表現
（日高水穂）
- ・沖縄県那覇市首里方言の原因・理由表現
—「クトゥ」と「ムンヌ」を中心に—
（仲原穰）
- ・沖縄県宮古島市平良字下里方言の原因・理由表現
（中本謙）

【辞典項目記述】

- ・凡例
- ・カラ（竹田晃子）
- ・クトゥ（仲原穰）
- ・ケー（船木礼子）
- ・セン（吉田雅子）
- ・サカイ（日高水穂）
- ・シ（船木礼子）
- ・ダス（竹田晃子）
- ・タメニ（日高水穂）
- ・デ（小西いづみ）
- ・ドゴデ（竹田晃子）
- ・ニ（吉田雅子）
- ・バ（中本謙）
- ・ハンデ（日高水穂）
- ・ヨッテ（船木礼子）
- ・ンダンガ（吉田雅子）

また、ウェブサイトでの研究成果公開にも取り組んだ。最終的な辞典の構成を想定した「全国方言文法データベース」を作成し、上記の報告書に基づき、「原因・理由」のページを作成した。

全国方言文法データベース

<名詞句関係>

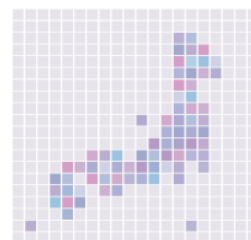
格
主題
とりたて

<接続句関係>

▶原因・理由
条件
逆接

<述語句関係>

否定
受身
使役
可能
自発
授受
アスペクト・テンス
推量
様態・伝聞
疑問・確認要求
意志・勧誘
希望
説明
命令・禁止
敬語



「原因・理由」のページには、報告書の「概説」と「要地方言共通調査報告」（ホームページ上では「例文集」）の内容を掲載した。「例文集」では、一部の例文に、当該地点の話者による読み上げ音声を付した。

原因・理由

概説 [総論](#) [分布](#) [歴史](#) [各論](#)

会話例 [調査地点一覧](#)

例文集 [調査地点一覧](#) [調査項目一覧](#) [PDF/172KB]

さらに、ウェブサイト独自のコンテンツとして、音声データを付した「原因・理由表現会話例」（青森県八戸市・東京都新宿区・富山県立山町・関西（大阪・京都）・中国地方西部・沖縄県那覇市首里）を作成した。このページには、原因・理由表現を含む2つの会話例の方言訳に音声を付すとともに、当該地域の紹介と方言の解説を行った。

会話例 調査地点

home > 全国方言文法データベース > 原因・理由 > 会話例地点一覧

会話例 調査地点一覧

青森県八戸市
東京都新宿区
富山県立山町
関西(大阪・京都)
中国地方西部
沖縄県那覇市首里

home > 全国方言文法データベース > 原因・理由 > 会話例地点一覧 > 青森県八戸市(解説)

青森県八戸市の原因・理由表現 会話例

解説 [会話例1](#) [会話例2](#)

青森県八戸市
青森県八戸市は、青森県の南東部に位置する太平洋に面した地域である。沿岸部には大規模な湾が整備され、北東北屈指の水産都市、工業都市として、この地域の拠点となっている。青森県の方言は、西側の津軽方言と東側の南部方言に分かれるが、八戸市方言は、長らくこの地域の中心地であったことから、南部方言の代表的な方言と言ってよい。原因・理由表現には、ワカイ系のスケが用いられることの特徴がある。

会話例の話者は、20代前半の女性である。この話者は、原因・理由表現としてスケとカラ(ガ)を併用する。ここでは会話例1の【判断の根拠】のみカラ(ガ)を使用し、他はスケを使用しているが、この会話例で設定した原因・理由表現の例文のいずれにおいても、スケとカラの両方の使用が可能である。

話者情報
【話者A・B】 生年:1986年 性別:女性 生育地:青森県八戸市
【調査時期】2007年2月
【調査報告者】日高水穂

home > 全国方言文法データベース > 原因・理由 > 会話例地点一覧 > 青森県八戸市(会話例1)

青森県八戸市の原因・理由表現 会話例

解説 [会話例1](#) [会話例2](#)

会話全体を聴く [🔊](#)

A: マイニジ アジ フルスケ センダグモノガ カワカネー。 [🔊](#) 最近毎日雨だから、洗濯物がなかなか乾かない。【事象の原因】

B: アンター キット イイ テンキニ ナルヨ。 [🔊](#) 明日はさっさいいい天気になるよ。

A: ナシテ ワガンノ? [🔊](#) どうして分かるの?

B: ホシガ デテラガラ。 [🔊](#) 星が出ているから。【判断の根拠】

home > 全国方言文法データベース > 原因・理由 > 会話例地点一覧 > 青森県八戸市(会話例2)

青森県八戸市の原因・理由表現 会話例

解説 [会話例1](#) [会話例2](#)

会話全体を聴く [🔊](#)

A: スグ モドツクルスケ チョット マッテデケレ。 [🔊](#) すぐに戻ってくるから、ちょっと待っていてくれ。【理由を表さない用法】

B: ナシタン? [🔊](#) どうしたの?

A: ワスレモノ シタンダー。 [🔊](#) 忘れ物したんだ。

B: シンダバ アマガ フルト イケネスケ ツイデニカサ モッテケテレ。 [🔊](#) じゃあ、雨が降るといけないから、ついでに傘を持ってきてくれ。【行為の理由】

A: ウン ワガッタ。 [🔊](#) うん、分かった。

B: シンダバ アタシ ココデ マッテスケ。 [🔊](#) じゃあ、私はここで待っているから。【終助詞的用法】

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 11 件)

- ①吉田雅子、「関東及隣接県方言調査書」について—紹介と分析—、山梨ことばの会会報、無、15、2009、1-19
- ②船木礼子、意志表現、方言文法調査ガイドブック3、無、2009、15-31
- ③中本謙、琉球方言ハ行子音 p 音— $\phi > p$ の可能性をさぐる—、沖縄文化、有、第 42 巻第 1 号、2008、1-16
- ④前田直子、「もっと時間があつたら、時間さえあれば…」—条件の「たら」と「ば」、言語、無、37 巻 10 号、2008、28-35
- ⑤日高水穂、「そこに車をとめればダメです」—標準語と方言の意味のズレ、言語、無、37 巻 10 号、2008、28-35
- ⑥大西拓一郎、静岡方言の文法・語彙、方言研究の前衛、無、2008、128-141
- ⑦日高水穂、文法化理論から見る『方言文法全国地図』—「とりたて否定形」の地理的分布をめぐって—、日本語学、無、26 巻 11 号、2007、92-100
- ⑧吉田雅子、『口語法分布図』と『方言文法全国地図』、日本語学、無、26 巻 11 号、2007、44-56
- ⑨船木礼子、推量とその分布、日本語学、無、26 巻 11 号、2007、148-155
- ⑩山田敏弘、岐阜・愛知の若年層方言について 2—文法的な形式と社会的関係を表す表現、岐阜大学教育学部研究報告 人文科学、無、56-2、2007、1-21
- ⑪山田敏弘、岐阜・愛知の若年層方言について 1—遊びのことば・学校のことば・オノマトペ—、岐阜大学教育学部研究報告 人文科学、無、56-1、2007、11-41

[学会発表] (計 5 件)

- ⑫松丸真大、Variation and change of honorifics in subordinate clauses、19th Japanese / Korean Linguistics Conference、2009 年 11 月 14 日、University of Hawai'i at Manoa
- ⑬船木礼子、カジュアルスタイルにおける方言切換え—移住先方言の受容と切換えの要因—日本方言研究会第 88 回研究発表会 (第 88・89 回研究発表会)、武庫川女子大学 (島根県立産業交流会館 くにびきメッセ)
- ⑭大西拓一郎、Comparing the Distribution of Dialects, Societies and Environments in Japan、Thirteenth International Conference on Methods in Dialectology、2008 年 8 月 5 日、University of Leeds
- ⑮三井はるみ、条件表現の地理的変異—『方言文法全国地図』の概観を中心に—、日本語学会、2008 年 5 月 17 日、日本大学

⑯三井はるみ、方言の研究法—体系と多様性をめぐって—、平成 20 年度国立国語研究所公開研究発表会、2008 年 12 月 19 日、国立国語研究所

[図書] (計 10 件)

- ⑰小西いずみ (編)、私家版、広大生の方言地図 2007、2010、89
- ⑱小西いずみ (編)、私家版、広大生の方言地図 2008・2009、2010、141
- ⑲佐藤亮一監修・吉田雅子 (共著)、三省堂、都道府県別全国方言辞典、2009、476 (138-145、389-430)
- ⑳山田敏弘、白水社、日本語のしくみ、2009、144
- ㉑竹田晃子・吉田雅子、国土社、まんがで学ぶ、方言、2009、119
- ㉒高木千恵 (代表)・真田信治・水谷美保・松丸真大、桂書房、最古の富山県方言集? 高岡新報掲載『越中の方言』 (武内七郎)、2009、352
- ㉓前田直子、くろしお出版、日本語の複文—条件文と原因・理由文の記述的研究—、2009、273
- ㉔吉田雅子 (共著) 小学館、小学館ことばのえじてん、2008、431
- ㉕吉田雅子 (共著) フレーベル館、方言と地図、2008、84
- ㉖山田敏弘、くろしお出版、国語教師が知っておきたい日本語音声・音声言語、2007、191

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況 (計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

[その他]

ホームページ

<http://hougen.sakura.ne.jp/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

前田 直子 (MAEDA NAOKO)
学習院大学・文学部・教授
研究者番号：30251490

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

大西 拓一郎 (ONISHI TAKUICHIRO)
国立国語研究所・時空間変異研究系・教授
研究者番号：30013797

小西 いずみ (KONISHI IZUMI)
広島大学・教育学研究科・准教授
研究者番号：60315736

中本 謙 (NAKAMOTO KEN)
琉球大学・教育学部・准教授
研究者番号：10381196

高木 千恵 (TAKAGI CHIE)
関西大学・文学部・准教授
研究者番号：50454591

日高 水穂 (HIDAKA MIZUHO)
秋田大学・教育文化学部・准教授
研究者番号：80292358

船木 礼子 (FUNAKI REIKO)
神戸女子大学・文学部・准教授
研究者番号：00454736

松丸 真大 (MATSUMARU MICHIO)
滋賀大学・教育漢具・准教授
研究者番号：30379218

三井 はるみ (MITSUI HARUMI)
国立国語研究所・理論・構造研究系・助教
研究者番号：50219672

山田 敏弘 (YAMADA TOSHIHIRO)
岐阜大学・教育学部・准教授
研究者番号：90298315

吉田 雅子 (YOSIDA NORIKO)
国立国語研究所・時空間変異研究系・奨励
研究員

研究者番号：50399490

(4) 研究協力者

竹田 晃子 (TAKEDA KOKO)
国立国語研究所・時空間変異研究系・非常
勤研究員

仲原 穰 (NAKAJARA JO)
琉球大学・教育センター・非常勤研究員